



校長室だより

令和7年6月12日

教室から海が見える学校 美々津小

今週も半分過ぎました！ あと2日、乗り切りましょう。

いつも美々津小の子どもたちのためにありがとうございます。毎月1回は出したいと思っていたのに・・・。久しぶりの校長室だよりです。

ある新聞記事から、今回のテーマは、「指導の下地づくり」です。特別支援学校の先生のお話です。

「褒めること」。私たちはとかく、児童のできていないことをできるようにしたいと考えて、しばしば注意をすることに重点を置きすぎてしまうことがあります。しかし、児童との関係ができていない状況で注意ばかりしてしまうと、指示が通りにくかったり、児童がわざと指示を聞かなかったりする状況になってしまいます。

一方で、褒めることを意識すると、より児童の動きに注目するようになります。そうすると、自然と子どもと良好な関係がつくっていくことや、その児童の得意なことが見つかる、自己肯定感が高まりやすくなるなど、指導の下地ができます。私は、「よくできたね」といった定型句から「そうそう」といった何気ない相づちまで、1日に1人につき20回以上は褒めることを心がけています。どうしても注意が必要なときは、短く端的に、できれば事前に伝えることがポイントです。

また、子どもの好きな活動など、「児童の好きな世界に飛び込む」ことも教わりました。特別支援学校に在籍している児童の中には、教員からすると独特な余暇の楽しみ方をする人もいます。それが周囲に迷惑をかけるものでなければ、ぜひ一緒にになって楽しんでみたり、「こんなものもあるよ」と広げたりしてみてください。これも指導の下地づくりになります。



児童との日々の何気ない関わりを大切にすることから始めてみてください。